



本
號
卷
2
5921



<49-2762>

玉 窓序

せはうほすまゆるまへに。人のよひり
乃言の榮も。やうにれをみ川のふ
いきゆめと。久保乃ちよみ
にもいとば。酒はすく同じき物。ま
あふへのうべあまと。酒は
日本。ほじぎるり。うそとめど。

玉 窓序

了
方類
2640

歌詞文網。は集、之は集。此物終、之を
のぞくと。是升りよしにあらざ
て。一松一肩も、やうもんく。さほまろ。
ちえむす。あらざるすよからずて。な。
ソホくおびきまのむかわく。お吉の
蒸。たとやわはくせざるあがくら
まど。よみ出る歌も。つきゆ。

文も。も。算えぬたと。もうちく多
く。算えぬ。もく。言の束の道。は。は
けく。やじや。ゆく。左と。右と。お
らひまわび。おまざ。今。の。お
れ。心。の。き。と。おや。まく。お
も。お。歌。く。の。お。む。と。め。じ。は。お。く
花。お。の。お。う。け。と。お。う。で。う。れ。や。

春とし。すがご。吾の心。
まろ此の源を歎みて。さうい河
の水乃流とよきとく。てはの
えとゆる。さくと。うみ大石
くまと。儀のあらみ。あらと
山崎。あらまぐれ。まぐれと
直。あらと。あらと。核の枝や
此のよしよ。いふのやむ。とま人
えとよきのとくわざりまとも。た
ぎとよき。真も。秋の田にあく
ては縮のねとよき人。りふ。乃
海のつて。いはせむ。高張らが
あらは。うみのよき。ひまち
と二のよ。よめくよみ。み程波

は浅香山と。父母のやういふと山
のうちへつづく。涼しくものもあらう
ひまかどるのをとくとも思ひ、
ううで。さのゆゑあんにほんあき二重
をと書きへん。

三井高菴

まじれ
まかじのやぶるあくわく
あらむうごやまくねむを
育がれ時代のせぐら。うきのゆくやう
きて。あのまかじのとくも。やくふらうきやう
わひなふ。がやふらうき。せうみよのあんの
いざるふく。そく、うみるがくや。あはれも文も。
おはをばくとえど。くらがきせの人あめちふ
のこ。かづひあくじをかし。そくくにまくよ。人
うみのせんと。ちよらじよやくすや。うかじ

○口ノ目

まくはる。さうかうれし人のう。うすむらか
とおもひあそびやくさが。やくさが。
うかひよべきふうじ。今こゑをまく
つる。くわおのうきやみたま。下さるのうきよ

〇ロノ五

本居宣長

歌の部目録

み

み

や

や

うのあせとやりとふく

う

き

き

うのあせとやりとふく

う

き

き

玉あそ

神みちうひ やえやりく ちとあまたの せきらう
 みくらはれをそむのまふひうくと たはひ
 岸のうひうけ たはひ タメつひを たはひ
 うじゆうの句 太九のひ くもくとく 三十九のひ
 やしもあら句 三九のひ 文の句とくもくとく 三九のひ

文の歌目録

よきと せ六のひ
 よのかく せ七のひ
 黒があくとまがくふ せ八のひ おうき 黒 せ八のひ
 人の名を捨てて せ九のひ まねく者 せ九のひ
 某のあく黒 せ十のひ 友さき 友だち せ十一のひ
 大忍半一 かづく せ十二のひ
 あくとま 二十三 せ十三のひ
 うごく 四十三のひ
 あくとま 四十五のひ
 川とくとま せ四十六のひ
 あくとま せ四十七のひ
 うごく 四十八のひ
 かづく せ四十九のひ
 うごく 四十五のひ
 まくとま せ五十一のひ
 まくとま せ五十二のひ
 まくとま せ五十三のひ

ほりひき つうひき きりこち きのう

ませど きのう まく きのう

まく まく きのう きのう

よもて きのう まく きのう

の きのう まく きのう

いや きのう まく きのう

せうとくゆのけ まく まく まく

時代のめぐらか まく まく

ゆふふ きのう

まくまくのけ まく まく

まく まく

あさみ

月

月 晴。山もす。水もす。風もす。鳥もす。虫もす。月とす。
などのいづひのいづひのことをあくまく。やうなはまやく
ふまごひめく。かく近く。月が晴く。山が晴く。水
が晴く。風が晴く。鳥が晴く。虫が晴く。月とす。
きこ。をあく。はうむねきもとひ月く。ぬきせんべ。此
みづのつひのをうたまく。山は月晴く。月晴き
かどす。ばきぬきもと。ぬきゆみとす。ふきく。

あ

やまもと山のあらし。あまざかやまは、とせぐまきね。
ちうま世ふをふ道し。うるま。あどふやくよし。こま
道し。うるま。ハとよとまハ。志り。優たまび。トと
よとまは。ふおまてし。こちわくはゆ。ゆう。め
ちむふあまび。くま。まよべ。もぐて。かやのす。
ちのすとよく考へまつて。さきかく

近き處の處「まちあひどんと」
はあぐいの「まか」
のあかふく「おふくろ」
あるがゆく「おゆく

七

できてもあき。又中ゆ辯をへておふくろのまじり
であくから。今の中あむきく得ててあきだ。
中ゆ辯をへておくから。かくらひ。得ててや。あ
おくとあく。おこくとあう。あくん。あれあ。
うん。あどひがき。うかうとあやあくん。あきあ
やうん。あどひがきあく年月をやへかく。あく
うきあくん。あどひがきあく年月をやへかく。あく
里ようやきあくんあどひ。あうのあうやもさういと
なう。おのええをとくにまづべ。たゞ今のおう。
あもれえをとくにまづべ。かくらひやくらへも。おの
涙うとまぬい。おこくね。但一。むうぞ。あわざ
いふぞ。あやう。あくらひ。あくまき。あくかと
とやし。その下あく。いふぞ。あどひ。やり。をあくとあ
く。こきも遊びのやあく。うび。うふ。あく。き
よ。あどひは。うべ。別。うべ。え。うべ。や。う
や。うべ。あどひ。や。と。うべ。うふ。うべ。や。や。う
こく。と。うべ。うべ。うべ。うべ。うべ。うべ。うべ。
うべ。と。あく。うべ。うべ。

そぐととおの上れ。おまくら。おまくら。おまくら。
今の人づけ。おまくら。おまくら。おまくら。おまくら。

あとくわがまみ。」かく月。はる月。をぐ月。
みどりとと。ゆるまのま。」あぐま。」かく月。はる月。
くも。」月日。みどりよしもとある。そぞれあぐま。

倍うのもぞ万葉集。アマガムアモト御あれど。さく又其の
中あ。他のあもとがきとあて。自御のコロ。御も多
い。あもとがノモ。組とソモ。組と人のこと。ソモ組
とソモ。組のあがくとくも。又ソモ。煙とソモ。烟の
おがくとくも。もつて煙とソモ。組と人のこと。
と。和まむま文。まくまくまく。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。

モリモリモリモリ

あ。て。と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
た。多。り。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。

モリモリモリモリ

ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。
ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。組と。ソモ。

うきごとそまともおとをあとうこあくあひゑくど。ま
ておとあがる例へ。まべくなまくとある。こへおりへと
のまきとへ。まくわゆあくまゆをや

りもく るく

しゆどといひとくとふと。りもく りとくとゆふ。まの
黒ねることか。ま葉のまはるいづがく。おもむと 迎
ゆへく。もくは一本とくたまくあら。まくとつぶづ
とあらうと。まくとくり。まくとくぬ時へ。もくとくぬ。りもく
とくとくじ。ひとみくらう

まく

絶えと「あき」のまのまにあらむ。まくとく。ま
くとくあくとくまくじ。まくとく。まくとく。まく
とくあくとく。上あがのや。のねのねあどのかく。まくとく。ま
くとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく
らば。上あがのや。のまくとく。まくとく。まくとく。まくとく
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。まくとく

ゆふことのまくとく

もとへてあそびにまつた。うらやましく思ふ。
まふ。ある「まくら」。まくらどあかくまくら
をもつてまくらし。或は「まくら」。まくらのま
くら。まくらのまくら。まくらのまくら。
まくら。まくらのまくら。まくらのまくら。
まくら。まくらのまくら。まくらのまくら。

を。ほふりあむやうあり。又文ふくらむとくも。古人のかゝる書つて
絶えぬのを知る。今まことに絶えぬのを知る。其事あつ
きしいもじあ。一ノ字か多字。一ノ字か多字。又あらわ
く。字の多さと少なさをかぎ。かく。かく
ソリ。とソリ。もくへも古今の事序をそくへも。もくへを
そくへ。此序ハ延喜の時代の費之のうもりあうといふ
べし。又のひく。おもむき。もくへ。延喜の書。おもむきの
ひく。かく。延喜の書。おもむき。ひく。延喜の書。おもむきの
ひく。かく。延喜の書。おもむき。ひく。延喜の書。おもむきの
ひく。かく。又あ。せどやうありあらぬが。又。書
のりくわく。とくふ。一ノ字か多さとくふ。人を。を
りあるが。もぐ事。あり。適時。のすね。ハ。おもむき。とく
ふ。一ノ字か多さとくふ。一ノ字か多さとくふ。人を
ちけ人の。のう。又あはの。人を。とくふ。おもむき。おお
まく。今を。よしと。あわせ。今の人。お。文。此。復。と
ふ。お。お。と。約。の。約。お。お。の。二。の。約。お。と。よ。お。
まく。まく。つあべきだ。

つ。つ。つ。つ。つ。

約。お。よ。て。下。と。清。と。よ。べき。との。差。部
あ。ま。し。の。う。と。お。約。の。下。必。あ。う。との。つ。い。

味をもくべ。せりやまとりあ。これらおのきあんとつま。
るふよへえあまく。ちの御をもくべま。

『ひそかに』

もとれどもあめ。あきらひ。あどよち。あわのあだ
づく。あきらひ。『塔えみりも。まくら自多と』
あきらひ。『ひそかに』

あきらひ。あどよち。せりやまと。あわともあきらひ。『さ
あ。あひあひ。あともあきらひ。あまきらひ。あまきらひ。』
『ひそかに』

あきらひ。『ひそかに』

九

まかくまくまくまくまくまく

かくのをふ「まわらむれせんが」
つよき、まのあくびうが・おうびう
お、ご、『まご』
まご、まごと、まのまごと
ごと、ごとと、ごと
ごと、ごとと、ごと
かくのをふ「まわらむれせんが」
かくのをふ

かくまく かくまく かくまく かくまく

あうづかふかとくとく。ノ吹くべ「は」とつた。風を吹
くうそと。あふ風も近ま第のん。じくのよひと。
「あまかちうてとソスカミと。アドリあまうとくへ えき
え」 トスアシジキトス、風ふゆあまつと えき
き。アドのくまをま、「吹く」とソスモもはド
リビのあましあ。ねじもまじりと舞。やまく
てまくび。上のまくべよりこままで。皆自作
のまくべ。いざまのねもまみひまぢら、いやうと。ま
まゆふるふく人の漫と二つ三つあふ笑まき
く
「あまかちうてハ、おうづかふかとくとく。ノ吹くべ「は」とつた。風を吹
くうそと。あふ風も近ま第のん。じくのよひと。
「あまかちうてとソスカミと。アドリあまうとくへ えき
え」 トスアシジキトス、風ふゆあまつと えき
き。アドのくまをま、「吹く」とソスモもはド
リビのあましあ。ねじもまじりと舞。やまく
てまくび。上のまくべよりこままで。皆自作
のまくべ。いざまのねもまみひまぢら、いやうと。ま
まゆふるふく人の漫と二つ三つあふ笑まき

『あふそき』
かくはびとくべきをふくと。近きのふくも
かくはびとくべきをふくと。今サトヒコトの
みにきよく一つもくとくふくを。『^{ヨロ}』
『^{シヤヒコト}』
豈ひふくをの。誰モかのやうふくを。其モが誰モ
かくはびとくべきを差別ケヘ。うくはくを。まづ
かくはとくべ。従ふくを。おぐくとくべ。せきと
くを。かくはとくべ。従ふくを。おぐくとくべ。せきと
くを。

まへん又べきへとつとちあはれとあく。
せまへぢんえきももへのをつとももへばと
えりがきへうござのきかくわとく。かんわと
又あきさきあとのをなう。右今まおみあふ^{タヒス}の谷
より出でるおこへまくらとゆれうきくま^ト
うくまくととゆきくはあん。又れうへあは
べきのまくとゆれうがもあくふ今め。ゆき^{ヤヒニギ}のとがく。
まくじとゆれうて。まくじとよみ。不の^{コロ}のとゆれうて^セ
じとゆれうと「せまへ」、「まへ」とも
もいきまかがともげゆり^{コロ}とゆれうべ。左の
おやまめの^{ミシク}のまかごとゆれうあくま^ト。
でもせうが。おひづれもとやれうあくとそ
くまくまく

考

〇十二

卷之三

おまへは詰めあまくおもふことども。あやつちふる
わうき。むきとうつよとつまくあつまく。後の
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

蒙古文

۲۷

とへきてハ・まきあわせか。こそ今あはすよ
す語ももよくももか。こそも日の
ねをもあ。『へく』とつじ。自とまむとえま
とふきを。『けとく』とのまく。そ
ねのむきゆく。ひとよほふ、うびや。こ
ひそもぐ。『とく』とくもひをくたまく。
ヨトバ

わ

「おまえがわざとあつて、おまえの里からあへん。」
「おまえがわざとあつて、おまえの里からあへん。」

あぐらむ。やソモラム。タラム。あどアムと
又秋よアマツ人ふりぬあ。ゆきのまつたちの
をくづ。トモウ。ヒ知ニモハマツ人びへありきど。
ミスル。又あらう。うらまかーなまきめつを
シテ。アリ。又あらう。うらまかーなまきめつを
キモセ。アリ。アモハタクニム。このまわち
シテ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

ロレアヤナレラガタ。ロレカ。トアラム。アヤラ
シテ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

やらぬ

ムムトモ「もの肩サム」とアハ。モモタム。程サム
ホ。モモタム。モモタム。モモタム。モモタム。モモタム
モモタム。モモタム。モモタム。モモタム。モモタム。モモタム

卷之三

〔
〕

卷之三

とつあをあう経がりてものとあへそもかあ
きたり。とつねどあよひべきてはふらうど

やえ

やがてハ信をあくまのまへども、ふとひきとく。
へもまほ日のひくを度やすが、そのまへども、ふと
るああうを。「まあやううのやがてまゐるおねうとく
くうじこ。ぬをむを近せんべ。経あく近^ツボトリふとあ
よむち。信をめう。かのやがてまゐるああうよ。近^ツ舟
をぬふあふとくうらう。思ひまづくべくべく。な、ひう
文ふ。とあづまハナ

経^ル舊

ちかまづふ。経^ルと舊^ルとまぎれく。得まづく。うおち。
ゆきくじ「年あま」とふも。年うくじ。鳥^ルね
くまくまとも。今年^ル経^ルとあま^ル。あはうとく
と経^ルとくわくもあや。へとくづべきと。りーのく
ね^{カヨ}。きりもあくとくし。こまもがくとしきとく
みくもくもみくも。ふくもとくいぐく。舊^ルふく
ふくとくくもく。経^ルハ「ふく」。ふくとくくもく。ふく
とくくもく。みけたう。みけふ月あまとのまく。日ね
の経^ルと。あのねうとをかひてへもしゆる。日ね

とつまうと。明日かくとつまてハ・日暮を終ふと
あがめがくとあまぐべー

アラジ

アラジやまと。君のらまやまと。この消やまき。おも
ぐの心おこなはやまき。おもむかづくまき。心こへ
ま。ア月日を。ア月日を。ア月日を。ア月日を。
つあもむうととく

アラジ

近習へのまかん。あまかとつま。れむむ。あまかと
よじとま。アラジのまくとま。アラジのまくとま
アラジのまくとま。アラジのまくとま。アラジのま
みまくとま。アラジのまくとま。

アラジ

シテアム。まくとま。アラジのまくとま。
アラジのまくとま。アラジのまくとま。アラジのま
アラジのまくとま。アラジのまくとま。アラジのま
アラジのまくとま。アラジのまくとま。アラジのま
アラジのまくとま。アラジのまくとま。

アラジ

アラジ。あまかとま。アラジ。アラジ。アラジ。
アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。
アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。アラジ。

「おおどつまむとくふとくは、さういふよし
ちくわゆるも」

かみき

これへりのうにとらぐべきほの持あきせ。初學の
せあ枝ふきとくわくらきあくまことひくらめく。今うの
枝はかるほづひの供をとひとす。かう望とく。お
く見あらむ人のミダリキ。

ようくかくちくすあく

「おうれう。信ふるふせうあく。うきあひや。うきとの
やあくと。あくとおきとあくと。あくと近せくと。うきと

うきと一つふくらむよや。うきとおき和ふ。は因とつふを
もぐす。うきとくはトかがばたくまよ梅枝ふわうき

いじぶらうをとくうと。ものむくとくと。ぬくとく。

「おうれう。信ふるふせうあく。うきあひや。うきの
うきふるうのわくとくのわくとくや。うきあ。あきとあき
うきあ。あくとあくとあくと。こくはくをわくべー。」

かみき

モガ
うきふるう。物浦ふるうき。河あく。信ふるうきのあく
とくあくとくのうき。うきあくらむとあくとあく。
うきあくらむとあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく

かみき

「おうれう。信ふるうきのあくとあくと。此河もお達か

ああ、後撰集を三、四、五とつてそよそよう引
ぐまやく人のたぐゆく。上り、御とおのの處下るも
らひで。よりいやともほくつとき竹口と。おうと
近きふ。さすまく。ものさうとふよしも。おやつね。
よ哉美佳^{トヨヨリ}。がくしげわくまのへやうす
あつひをねの夜う月。これに己^オがをつひく。思ひへごつ
かのくるをやまく。あくべぬきせふよしもおらう。
ときどく。年うふなれすとまごむ月のうくーを
うくま。思ひざとのあたとよ。さうやうゆも。すみをや

くくく

うきの人のふみをのまう。がくと。交ともあくきとあ
て。俗あつまらひふく。あどふとてのうがえ。物うと
近き人ち。あのうぐれうぐれ。はるかと。くとへがく
の獨もくくじぐく。記あとやうふ。くとへがくとふ
くとへがくと。上のめうきとうもとまく。ばれも
めうくと。ふ多き。ほあくと。づきと。うの古人の
ほくいと。やうふ。あくまく。あのうれと。くと
まくのうれと。やうふ。あくまく。うのうくと
くと。うくと。うくと。

の日も。近きものへおとづれをうながす。おのとて文ふ
つらひくまくは。うへてくつあべきまく。

みのむらのしる

このむらのしると。人の家とれましとくとく。
わくわくとよとよと。かまくのかまくのうらうらとくとく
くわくわくとよとよと。かまくのかまくのうらうらとくとく
くわくとよとよと。かまくのかまくのうらうらとくとく
くわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
くわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
くわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
くわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく

わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく

わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく

さくわく

わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく

さくわく

わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく
わくわくとよとよと。人をねまくわまく。うわく

サホリシタムカニ代アドガヤムシハハシミヤ

ミの・み

ミのカミミハスキサホリシタムシハハシミヤ
ミキ。ミ時ヒテアシム。シムトヘアヒツル
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。

天ガト

シテハチトのトヒムシハスキ。天ガトトアモシハ
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。

四つノ海

ヨウノシミヒミシミハヤシカニヒトアモシハス
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。
ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。ミシキ。

五
五

アヒタハ。アヒタハ。アヒタハ。アヒタハ。アヒタハ。

とゆくもへるく。唯、胸をうつてあまぐし。あくを梅
のうなみふと梅花の方ようゆすらう風をう
くみあひほとすもあく。いぐ。

三とこと

きともハ日下紀の成勢天皇の御幸コイム・背面オニギキとある
がくくうろのとみと。後チヨあく・外面コトモとふねえ。
うひへがとこととのうがへるのこがくは。うそく、あ
けもやく。さて外をコトモあそびへ。うそく
わく。かとく、うそくはまふ。ほく

野とせをりせ

やうせん。やも抜ヤウきまで。物のみらうと。をりせん。を
も抜ヤウきまで。めらうと。めらうと。やもをよと
りとと。やもをよと。をりせんとよもちかとある。
うれしを面のとくらうとよや。うれしをりしとよ
うのうれしとよ

をりふと

あくをあくとよれとよれを。の面とくみて。の
面とよとよあく。おおようとひよあく。がくあく。

おきぐ

みきる

多様も少く用をなむか。伽とまこと近世ある
い。

引

引その樞字をちて。多くき戸のほそく。糸を繋
のエガタあど。と戸のとあよじへいぐ。そんやうもれ
うふもえどれど。わらがくべ。

出

簾とこそとりひへ。従あくと。近世のあふ。けふ多くよ
じて。あそび。古き書ふ。小簾アスと。を。を。を。

あそびや

引

蠻と。幼虫め輩れ。あふ。ち。けたと。と。も。か。一。こ。
漢文ふ蠻火カイクと。ら。ま。と。そ。の。と。あ。く。は。ま。と。よ。す。
蠻火と。あ。ち。即チ。か。ふ。あ。こ。う。れ。神代紀。お。蠻火
光林と。あ。と。「か。う。が。や。か。や。く。林と。あ。よ。は。」
「か。う。が。や。か。や。く。林と。あ。よ。は。」

出

と。し。か。と。り。く。と。漢文。皇國。の。ま。か。ば。

おべてひうあとく。地あとうあらん人あどせ。地あまえ。或
門。牛も里の入口あどまで立歩。遠はとてこづ。と
居てひうあとく。ひうあとくとく。あればまおむ
とも。門口又も里の入口あどまでりて。迎ふるのあが
とく。ひうあとく。ソシかん。まかん。あらのこおとをゆき。
そやくお進すゆあくとあくされどく。頭あまは近春
めどりも。ほえし。とぐく歌も。達文の格あくも。ま
れも。ま文字のまふとまあるとがや。とくまみは
まきをひうあとくと。後せあ。俗語あとひ。あ
も。文ふむのうがきと。おとへをくわいりと
まわる。はーととねが。おととくはくおーふう。ひうあ
きき。あどよけち。とく。うきうきあく。おととくはく
ま事あめぞく。おとみあき。おととくはく。おと
きのうへーち。おととく。ーじ。おととく。おと
とととく。俗語あとく。ヨウヰシタク。おととく年。お
とととくと。おととくと。おととくと。おととくと
らび。おととく。おととく。おととく。おととく。おと
とととく。おととく。おととく。おととく。おととく。お
とととく。おととく。おととく。おととく。おととく。お
とととく。おととく。おととく。おととく。おととく。お

よもとゆき。ゆきのゆかくとくとく。
うきうきのゆきとくとくとくとく。

うきうき

うきうきとくとく。ゆきのゆきとくとくとく。
うきうきとくとく。ゆきのゆきとくとくとく。

うきうき

中ふ

まのまのむかに中へまくとく。中へまくとく。
まくとく。中へまくとく。まくとく。まくとく。
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。
まくとく。まくとく。まくとく。まくとく。

中ふ

ぬまぬま。ぬまぬま。ぬまぬま。
ぬまぬま。ぬまぬま。ぬまぬま。

ぬまぬま

卷之六

۲۳۱

近き人ともくとらむるまき。多くえんもく
ちくもんくく。へりこゆのう。幻きくくく
あぐのあく。くもくもくものうのう。さく
とも。けとく。近き人をもく。やくくよゆ
體

五十九
十六
七

ひてあるべや。とくにうるべ

神ふちかひせんやもぐそまふキトワ

作術のすみ。一極とくと。又考やりぐれまふキトワ

うどよしこと。やまくまくとくと。さのすがれど。

そべて神あらはりとあふ。まみなす。まへ佛のま

ま。佛を本地と。佛をぶさの宝跡と。まへ佛の

ま。まくそく。佛のとありて。佛のひやかと。まが

とあく。まのまくもねく。まへきてともと

おほきなり。又むろやまく。まく。あと

くわくと。りゆくをかよと。かくがみ。和光同塵。とい

へうとうめうめうと。あく。神のまへあく。まく

あきとねうと。こまくも佛のとあもかまく。沿

あく。お。例の作を佛やく。佛のとみまく。まく

まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく

まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく

みとく行を

みとく行を

みとく行を

みとく行を

みとく行を

卷之三

タのスケッチ

アラムの如き

みりのものを。たゞ、^トあよそ
七、^トのうが、ハア、^トお
よも、^トと、^トまろのね、^トあ、^トあい、^トうかの肉の、^トと
は、^トあ、^トかまくらとおぐ、^トるくへも、^トああ、^トあきど
内、^スのあまみ、^スれの、^スまくさや、^スあ、^スうさの、^ス

チヤ。アガサシヤ。アリのホトハ。ソシテ。アキラ
ド。セリ。のちも。カモヘトモ。アモド。アガサシ
キタリ。アモ。呼格。アモ。アキラ。アキラ。
新古ノミ。のうち。アツシテ。西行。ミ。アモ。アキラ
犯。アモ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。
アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。
アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。

近キテ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。
アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。
アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。
アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。アキラ。

ウヌト。ね柳あとふ^{アシタ}アリ。それのえふ。用ひ貯あ
キ^{アシタ}香とふ^{アシタ}ト。アシタおとふ。トキアヌ^{アシタ}年半^{アシタ}う。門
アシタ^{アシタ}ソアベ^{アシタ}。ミ^{アシタ}モ^{アシタ}モ^{アシタ}ト^{アシタ}不^{アシタ}ア。アシタ^{アシタ}ア
アシタ^{アシタ}アキマム^{アシタ}。江^{アシタ}入^{アシタ}ハシ^{アシタ}アシタ^{アシタ}み^{アシタ}と^{アシタ}は
アシタ^{アシタ}。アシタヤ^{アシタ}。船^{アシタ}と^{アシタ}アシタ^{アシタ}よ^{アシタ}れ。ア
シ^{アシタ}と^{アシタ}アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。^{アシタ}アシタ^{アシタ}
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。セヌの船^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
風^{アシタ}や船^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
船^{アシタ}お^{アシタ}帆^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。帆^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。上^{アシタ}へ^{アシタ}アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}引^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。
アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。アシタ^{アシタ}。

やうやく、人の心をよみとらんあつて、又まことに
ふうとうとくとや。まことにふうとうとくとくも
耳カクとま。

汝の身も我の身も。とてまづはくまくまくまく
おもむきよもとく。ゑとくくくく。『
かきがふまく。』とせかやとくもく。『
せぬ。』とせかやとくもく。『
かやとくもく。』とんくわく。
あるゆどく。ふむうとくへ。『
ゆく。』とくもく。近き事あらわす
や。』とくもく。

日よも。月もあまく。月もあまく。月もあまく。
ひるもあまく。ひるもあまく。ひるもあまく。
ひるもあまく。ひるもあまく。ひるもあまく。
ひるもあまく。ひるもあまく。ひるもあまく。

三十一

390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1198
1199
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289
1289
1290
1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1298
1299
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1319
1320
1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
1329
1329
1330
1331
1332
1333
1334
1335
1336
1337
1338
1339
1339
1340
1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1369
1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1398
1399
1399
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1459
1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1479
1480
1481
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1489
1489
1490
1491
1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1498
1499
1499
1500
1501
1502
1503
1504
1505
1506
1507
1508
1509
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1519
1519
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1529
1529
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1536
1537
1538
1539
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
1549
1549
1550
1551
1552
1553
1554
1555
1556
1557
1558
1559
1559
1560
1561
1562
1563
1564
1565
1566
1567
1568
1569
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
1578
1579
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
1589
1590
1591
1592
1593
1594
1595
1596
1597
1598
1598
1599
1599
1600
1601
1602
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1609
1610
1611
1612
1613
1614
1615
1616
1617
1618
1619
1619
1620
1621
1622
1623
1624
1625
1626
1627
1628
1629
1629
1630
1631
1632
1633
1634
1635
1636
1637
1638
1639
1639
1640
1641
1642
1643
1644
1645
1646
1647
1648
1649
1649
1650
1651
1652
1653
1654
1655
1656
1657
1658
1659
1659
1660
1661
1662
1663
1664
1665
1666
1667
1668
1669
1669
1670
1671
1672
1673
1674
1675
1676
1677
1678
1679
1679
1680
1681
1682
1683
1684
1685
1686
1687
1688
1689
1689
1690
1691
1692
1693
1694
1695
1696
1697
1698
1698
1699
1699
1700
1701
1702
1703
1704
1705
1

人のことひきとひとあす。こひめのぬきあれど。ちあそ
ひく。あれとほく。かみとみ出も。さく。じれふ。ね
一。い。びとゆき。や。う。む。じ。と。い。ま。し。
べ。ま。か。か。ふ。あ。さ。う。や。そ。べ。の。と。り。く。一。
お。ひ。う。れ。よ。お。せ。く。ち。う。び。と。り。く。一。
せ。づ。一。き。あ。と。ハ。の。よ。み。か。ん。を。と。と。と。
か。た。ふ。あ。と。そ。か。と。と。と。と。と。と。
も。や。ん。あ。と。ほ。あ。と。そ。か。と。と。と。と。と。
お。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
い。う。あ。か。り。か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。
あ。あ。つ。か。き。ぞ。か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。
か。く。ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。
ま。き。の。く。ち。き。の。よ。の。く。ち。き。の。よ。

アリ
エト

アリの種をいわゆる中華

曰く雅言ミヤコトみ中ミハふも文フミまモニあ見ミル。えうふよ
もすまスミドトれもすまスミ。くわくへじヒアトとをやハあトとす
ゑハ。雅ミヤコトらあがハる。えあもトすまスミの御ミタケあハ。そぐトか
のとトきトじ。右ハのよれアガハ。おカあト。『みどり』もづト。ちと
あトのとトすまスミ。『』
天ミツマタのミツマタもあトやハ。様ハシと體トボクのくさトあトどト。よしと
くミまミくミ。『』ふアみミ。きミよミくミうミ。又
詮コタメへトくトとト。『』へとトくト。文フミまモニあハなハのまハがハれ
くミとト。古ハのミツマタのミツマタ。もミくミ。のミあミくミ
よミひミ。近ミきミのミよミ。あミくミ。ひミとトまミうミかミ。
まミくミ。あミらミうミがミ。いミあミくミ。ひミとトまミうミかミ。
まミくミ。めミのミ活ハコトをミくミよミじミかミとト。せミあミろ
えミうミ。べきミきミかミて。えミまミあミもミきミて。くミれミ御ミタケも。のミあ
ふミくミ。つやミきミうミ。さミかミ。又ミロミ。文フミと
あミくミ。かミ復ミタケ。ゆミきミのミこミまミ。あミくミ。う
うミくミ。かミかミれミとト。ゆミきミのミこミ。うミれミとト。うミくミ。

とくべて氣のうち。はふつてかへや。さがるもかか
ハ此のふく。あくねうるの御コト。ついとやうてうのまくあ
すみあどへ。あせやく。おもあくかがるわくと。まく
へくええきくまで。きづく。うきく。かくとくや
一あくきく。かくとくとかくわく

文の部

あかくのあも文もとくわくと。と。なまく。あく
絵あらげつ。今をとく文ふねくと。を。かく。
そくとくらまきのへ。文もとく。と。とくわく中ふ。
文ちあく。あく。とく。とく。とく。とく。とく。
行と。二とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

きもとみキドらぬあどあざわ・うまや・さつさ
ふき年

され

文のそドをと。そんとちゆと。清文カラグミの夫シジ
アキ。さうあちの語ヨドふう歌カウを。あかくまう。ま
トあく。やうめめを。まくとくを。さく。漢カラ
文カラあめくろめまで。もうとねま

いふあととある

序アラタリの後アフタ。つとあうとらむ。こまも清文カラグミ
アキ。まうとく。まくとくとかことへ。行ハシマる
きどりひがま。まうとく。うれぞ。うれぞ。かの
ま文カラやうをへまる。まうとく。たうとく。せのへ。この
まもと。もよふえちく。ごちく。アヌあれ。清
文の行ハシマきを用ひ。まきかへ。かへ。ご
くは。一きかへ。雅エレガをもく。ひかへ。ゆふも
う清文のやうめん。すく。俗語カクをもく。まく。あく。め
く。もく。とく。とく。清文の字は絶々と。云尔と。多く。ゆふと。首
もく。ゆふ。みく。きく。此訓あく。云尔。二事とも。助辭。あれ。も
もう。もく。さあ。また。また。皇國の文カラかくべきことを

よの

近世人多め歌カラ。かく。もく。あく。と。らむ。ま

とやふにこくの事。其の世間を、いわゆるとてゆるか。いと
ゆふにゆき。おなづかへ。俗語ありのをあくうとゆき
をう。おなづかへづひくとをさう。一おでう
うと。おなづかへづひくとをかんや。

二つの年 二つのト

今の人々のちづか。その時の年号をもとめて。元年と
ちづか。とからいふ。あるものか。二年と年号など。ふ
ちづか。このとく。あとからこと。中古の文ふと例もら
きと。室町のめりひがふうじ。かくとたまう。やうふ
うじ。とくの二つとくある。とくじ。二つ
の目。「五つの指」といへど。目二つ。指五つとあうぢや。
又「寛政の二つのとく」といへど。寛政とよく人の三事の時
とくとく。すまきや。それが二年と年ある。とくじ。と
くじのとく。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。
とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。
とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。

某の年 二年の

近きとくの人々のちづか。とくじ。とくじ。
とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。
とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。とくじ。

かあるものとあるて。思ひのやうあつひふくき細ある
所。近す人の味をあくびるか。かほみもとめると
もゆるや。

おのじ思

近きうつせへ文の中あづくみもとおのじ思ふ
もと。かくともかく。こそおのじとかく。又バクとく
の。行きあもあん一つをくべきとおのじ。又もと
りも。古へふけうれとなく。そくは序文ふ「不佞某とお
ねど」と思ひ。つむきあらもとおのじ。おつて
文あらへ。がくのとく。五口や僕あとつして。己とよどいあきと。情
ふのえよ。」
あれとうと。うちをりくとつのとおうき。これほふも月一とく
もとと。今世あれ。私もと世者などのうして。うづくらとく
とくと。あきと古へと
うとのからゆれ。

人の名をよみうする

人の名へよみうする。あるうのゆく。實をよみて。ひやく。よ
れきとく。をよみあへのう。うへどらあどの中よめ。もと
すふうとかくを。雅ううとくわせて。上うへくいふ
よやまへの片へよく。もとくへく。名ひうく。もくへとよく。
もくへく。つきくらあまで。上まくら一代あ。よやまへと
ももとよぶと。あううへあよく。古まへのうとよどハ

今と人のものとあると。あきるふうで。本家のやうを
わざり。今と人ひらひよると。やせりとんの口をさし。
中古よりこまく。まげて人のもの。りそと。その様なご
みめりて。こまくとよがまを。あやしとまとと。上下あくべ
との定まりあつて。あきる。こゝ止まつて。代のじやうあひつ
ぎれあひた。

某かく者

まげて人のものといひあつて。或ち某かく者と云へ
まき。或ひむすり某とひし者せし。あどあびきを
近きこの人の文を。里かくへあひ。某かく者の
まきあどかく。ひかくとつむ。つむと。漫く。まく。洋
文の近年の例あつ。有某者と附くと。云あひ。某
ちも。一ノ字もあや。漢文もあくまく例あつ。トイフと後
半で。一ノ有某者と。云あひ。こまく。正一。まく。まく。某
を。近年の人。あまく。一ノ字も。あひ。まく。あくまく
ひまく。ナルモノと。附く。やまく。と。続つ。ひて。やまく。やまく
あう。云と。序文も。と。かく。と。うと。あ。云の文ふう。
まく。あ。うと。云まく。やまく。かく。あ。うと。あ。うの
つ。まく。まく。約あつ。お。の。文。あ。うと。半。お。うと。人。
か。約。あ。うと。者。うと。ハ。半。お。うと。人。づく。やまく。やまく。

卷之三

今度の人は文あしるともやまのへおゆのへとて
多喜の事。難波もまたかくひがみよろしく
かくひふうとつとましをきとひふ。比よりの
人の今内系あ属。ああえよわざふはる里ふあう。
さきどくとくまの某^{タレ}難波の某^{タレ}と
そ。かやうのあと。のとよも。ときわまやうあらわ
をくは。やくふむ。がくわくえだう。但^シ一も報ふよくと
かよくもわの人をも。かくとよまく。だまくもとくび
今ハムヒズミとつまふあん。

文
部
省
印

今世人。妄以爲之。豈其
俗。不以爲然也。夫

支^シづれ又^シおどらと^シかく。こきゆくよ^シる。ちき集の
御^ミち。まくめ^シ延^ミあ^シかく。こ^アお^シむと^シくいに
あ^シぐれ^シいと^シや^シ。又^シお^シらと^シかく。き^シく^シと^シく^シて
ぞ^シらと^シかく。信^シあ^シく^シと^シく^シね^シバ。さ^シめ^シと
あ^シて^シお^シのと^シあ。お^シど^シらと^シかく。べきあ^シく^シせ

お^シわ^シき^シ

と^シき^シく^シと^シか^シ。天^シ空^シひ^シな^シ。さ^シで^シ親^シ子^シ猪^シ
玉^シあ^シく^シ延^シ。心^シ皇^シ龍^シふ^シ。臣^シ下^シの民^シあ^シく^シ人^シふ
か^シき^シく^シと^シか^シ。号^シあ^シく^シ。い^シうあ^シく^シと^シく^シと^シ。信^シト^シ
氏^シあ^シく^シ人^シと^シ。ヤ^シく^シと^シか。信^シく^シと^シのく^シ文^シあ^シ

かく

妹^シぐ^シ君^シか^シ。あ^シと^シか^シ。ハ^シ件^シと^シふ^シと^シ。し^シの^シ
そ^シう^シく^シか^シ。と^シじ^シく^シれ^シあ^シく^シね^シあ^シ。ア^シり^シく^シへ^シと^シく^シま
あ^シの^シつ^シく^シ。ア^シく^シう^シ。か^シう^シと^シう^シと^シ。ほ^シく^シく^シ御^シ
あ^シい^シく^シ。ア^シく^シく^シ。あ^シ生^シあ^シく^シか^シ。あ^シみ^シと^シう^シも^シ人^シヲ
あ^シみ^シく^シ。あ^シく^シく^シ。ア^シく^シく^シ。ア^シく^シく^シ。ア^シく^シく^シ。

四百

〇四十二

おもと。妹うまくひがし。おもと今うへ
と。あう。モト。うとう。おもと。うとう。
とやうあかくと。あう。うとう。

卷之三

のれと近き人の一人二三事記述
もとうとあきらめとなく。たゞ一
二三とこちつゝ。古今事記の二三事
うなどあてもあらべ。古文書のこの二
あらわすもの多く。上あらわす
二二つある。たゞと二三事記述
古今の事のゆゑあわづくし。^{シテ}
まあどんじがく。ひきあつてあやうい
かく。お経とつまみだ。お首の毛あく

毛
毛

カミヨ
『ひめのとおち。おとこは
まどり。がくと。こゑのとお
代のうか。ひめのとおちが
うむと。きよ節のうとくわすれて。うむと
もぬいりふう
ヌキあがと。かのじあがとくわのト。別事
』

を鄙のうとすとあわば・けふの古事記
地あるべくつゝ。

ハラグミ

田舎のとくあぐとすまみづし。ハラグミトム。あぐ
トムは田舎の官人のと仕事ミヨシをしてゐるあぐ。古事
の仕事あぐ。ハラグミえあぐえ出ヒダトドヤト。ハラグミと。冬
に様ジダよおしてひづりつまむ。その仕事が冬をつづ
ゐるをあど。豈よろこきと。あぐあぐと。ハラグミ
しかど。ち休日紀トガニキあぐへわざめにとせあぐ
くらすと。貫クルヨウスえのちほのふクルカミすと。ハラグ
ミをつて、大かくまきあくらわべ。とせ行ハラく
田舎をつて例あり。あぐ縣のとくあぐまきあく
古事記得成勢天皇の御美アゲタふくも

ハラグミトム

今のかび人。紅戸ふゆとまと。ホウトウハラグミトマ
ハラグミトマのふゆとまと。ホウトウハラグミトマ
ト。こそかびとまとをちと。裕あくやくあ口ひと
あらんど。地名かび。なまくとくに。まきと
ゆ戸をとめて、とあくと。ホウトウトカクマキトマ
ト。事あらまふゆと。ホウトウトカクマキトマ

おひつじども打まう。あくをさす
きそんじもさう。又角をさす
はあそぶ。今ハ天の下ニツキテ
ホエード
あるをかき。ふのをかき。さしきと
ヒヨク
さしきと山林をさす

15

今の人ナニハみ文ふ。ちやふう。班ハタケはあらう。あとかく。
う。ほ文の遊アマテラス。ゆき。ゆくをうふ。
と。そとみし。文人の。ゆき。あまがと。大人シロノウルの
門カゲ。ああ。ゆき。と。ゆき。門も。ほと。

道行ゆき

きゆうとくをゆうじゆとく。か
あせごのくせうゆとくまじ。強
と。かくへうゆく。みどりい。ごとく。

卷之三

とあるとひ川とつづくまゝゆふ。あう
とひ川の日記あどあ「黒川」といふ
ねどかくは、まことに、かちゆふ

『山川を博す
まへぬまへうむまくしちべて』
『又山六ちのとくへどもとくにそびるのとくに
とくに日地のまもらゆく行はまきとも川よこもとくとくとく
とくせせふ川よくとく人とゆく者あうこまかみが
とくせんやもとくよくとくよくとくよくとくよくとく
とくよくとくよくとくよくとくよくとくよくとくよくとく

卷之三

今は人聲ヒトボシの多くある。黒の七十枚ナガラが
やとからぬ。がくくとよす年タツに及シテた。にきくよも
あく。七十の聲ヨウおよよとりふる。雅ミヤコとまわる
皇國カウノクをそへ。がくとくすく。そのいとこく
名目メイモトあり。ごぶかぬ御ミサハシらふ。聲ヨウをとく
とくとふがくす。聲ヨウをとくふ。よみーさまと
ひ。も。身カラを聲ヨウ。そくあどつだ。聲ヨウをとくまく
ほ文ヒトビ。よくまくまでしへ。

ちとやま

「さういふはだまおととやがといへるが猶^{テニシ}ト、
いふとゆう、もととくと、人の今^{アラシ}がひへもとがまし也。
かとくいふあどけ^{ジコス}をもくるがてす。多くも漢文^{カムイ}あん人を
よそとぞと書^シて壽^{トシ}といひ。又生^{シテ}寿^ス中^{ウチ}をと拿^{ハサウエ}のと

と壽とよす。まほまつて往ひ。壽命のとを
ちじきとひまわし。そぞとほまの川あらまく。は
のまくと漫こと此處もひひとわくらまが

○三

近きうちめぐらまふらゆかみと。○三
よこみづくめ文あとむかく。うきはし。○三とと
よ正一き。うれをとととととと。うきととととがと
用ふる時のとふくまうき。難ふりゆきとととと。
うきがと難ふりゆき。うきあまと。うきとと
うきうちかと用ふるときのとととと。

うきとととと。うれと日格の行あり。ありきの歌ふ
とととと。うきとあう。あどつづきと。うきとととと。
とととんと。うきとととととととと。とい
とじふけどもがとたう。又級字も三代實錄の事
空命ふくと。うきとととと。を。やとかく。うれはは

○三

ととふとりと。俗ふあまふあまとととと。うみ
の車と。まふあるとととと。あまきかへとひやま
あま行ある。うきとととととととととととと
ととととととととととととととととととと

七日。

かへる

「まづ伊豆を・からてゆき・後づきはあく・山一き
のあ・あづまに・近きてあらへも・からず・さと
雅とくとくは・かや・むくちかめし・むうとこ
くまく・あゆあど・もとく・からくがまくわき・と
りくま・うるうど・うきよとおぬくまくうぐく
まく・まぐれ・「まくとからく・くれわとへ・ま
くとく・くれわと差あ・くまとくま・今
のへも・此かいつかとぬむじく・「まくやく・
あと・まづきあもひ・みくあへ・かいづか
まく・かくかどあ・まくおもちす・まくおもちす

卷之二

人あわせとせりと、うらやましく上る
人あわせとせりと、うらやましく上る
うらやましく上る
うらやましく上る
うらやましく上る
うらやましく上る

近世人の文はあらかじめせうとくにせんべり
雅緻あやうしきやうあらわで。もくじて「あう」の
例えを「志」との形へよみても、ある所「
うへうへ」とおなじ。もぐらがうへうへとうへうへ。
ま、れ丈とも。みづかふとくま、のまくま
こまくま人を射る。射るとは、射のうち
いふまくまをあはせる。もくじの
えれども、うへうへ

もとくまくとくまくとじますとひよに。」
「けりへじ後後のまくとひ。じまくまくとひよにあ
まく。じまくど人のまくふくやうえあどあひゆる
ちべし。まくまくといまくべし。まくとだまくのえ
まく。一つとかくまくおうび。まくと近せくのめ
く。まくのまくまくもあく。みまくまくとかく。まくとも
奴僕あどふ耳レモバしも。まくとえまくとまくまく
じまくまくとひ。又まくまくとまくまく
め。まくかくまくや。まくまくまくまくまく
づまくのえうひとのまくあべまく。ちきね

まくとまく。此假も。人と人と湯ヤハ湯の間あひま
まくとまくまくとまくまく。まくばの倍。又ちま
まく下カサまく者。奴僕あどふ耳レモバしも。まくまく
つもあまくとおし。まくまくまくまくまく
抑カサまく人のけ細をみまくまく。代カサの接カサ
の間あひまく。接カサ白カサみまくお耳レモバしも。中まくまく
あまくまく。接カサ白カサみまくお耳レモバしも。中まくまく
へをひく。世相をまくまくからし。まくまくとまくまくの
代カサあひまく。後接カサまくこおしとまくまく
中まくまく。花の帝カサけり接カサとまくまく。

此詞の多くは、かの主へ、お情報をとらんがために
やうふやいあまぐくのことをきくことをもとめの
やがてあまくを聽ひあせてもちやうづむるに
ゆとりありか。又新たうまくは、浅き詞みどりお声
自説のじやうあむふ。最ももじゆのまきは、もくちくや
ひあどふくうと。そやくからむごひの詞づりひが
とくかくびきあくと。とききぐのまことの例の
まふかれくらうとある。さて又こくしのちく
集をあどどぞくよ。おどおけ詞あと。一まのくら
ふをくまくとくは、お詞あまく。行と歌く

かまくあらむとく集。まくわら。おややけふあり。又
まくても。もくへきく。お絶えまくとあるべ。おま
まくわ。大かくけうびをぞくと。今のおれやひま
ねづまく。おれもとん人。またまくあまくとある。

詠歌

詠歌。おつまくとく。詠歌。おつまくとく
とくこととく。おうう詠歌。おうう詠歌。おうう
詠歌。おうう詠歌。おうう詠歌。おうう詠歌。
君の方へまくとく。君のまくとく。おうう
とくとくとく。思ううまくとく。おうう

の方おつきそひ語をうるふ。殊もとよつて。かくの
ところをあぶちきゆゑ。殊りとも被^ル賜^ムと半^ト。
あくまを今世人も。ば差別ちく。殊^ルかと云ふと。
多^シうなみざとあり

詠

きひきとひびきと。きひとひとひと。中井^{カミイ}とおゆく
のま便^{アモ}。正^{タキ}き詞^ハあひ。おもと今世人も。
かづてこゑと雅^{ミコト}とひハモガと半^ト。又こゑとま
役^ハの詞^ハも。猶^シきとひびきふ。引^ヒとかじかくと
きも。もくとも役^ハもも。うと用^ヒがひき行^ハし

つかうまうあひと。ふとかくひきわ。けまく役^ハのく
くまうかのうほまこま考^{カラ}ふうう考^{カラ}え

詠

つりとつりと。見も残^ハとひだらめ
あくもく。つりとハ。やほへふつま^ハとひ。俗^モおもやう
つま^ハの人ふつま^ハとひ。被^ル遣^サ。俗^モ繁^ハ
きあくもくも今の人ち。とれま^ハはふま^ハとひ。
もつりと残^ハてつむとひ。もくへも某反
よく思^ハひ役^ハつりとひ。おどきを得^ス。此^ハ口^ハ
きひまへのうへも。うつりとひ。おどきと例^ハ

ちゆきをうながす。つるぎも、おへり
はよあざも、いとくも。わとまどひとほ
とうとつるぎとひとも。さみのせふゆ者のもと
ゆふ。又物ともくもとらぐも。もと物のくとくとくおがく

乙
二

もこゑをちへ。もくべらうとくま。やしれは。
志くもとくの入ハ。かづくるもくちと絡く。
とくじて、志くのすやへそ。あ。あとかくもくと
きり。俗文あくに。紙はあどかく。アヤシおこせとくこと
あそ。封も。アヤリ字おがくも。せよのとくことくや。
ヨロ

まつりにあがめ。ふとくびきともよほえりと
まつりにあがめ。アキラまつりと

卷二

はくとくの事。坐まつた
まことにあまくとあまく、入まつて、坐まつて、かう
あとかつかさましにひきだす。もぐもぐと

五

あくまく人へかき。」もくくとくのうそ。
おどりやまかこつてとたまわる。さうどくわく。
國うぐいすの歌。● 票と。空まれるわきと、さのめとくまで
うきよばがくのひふべり。べきふあべ。

よもとくは。あ生れどのうえ。ゆきよ
まー。これあまて。ひまづる人矢も。ま
まかと。皆ゆとかくも。なへと。あふらむ。や
文あも。ゆと。ゆとも。ゆとも。ゆとも。ゆとも。
ちを古のま。しゆがやみ再。たまみ。約

۲۰

つるこまくら。とくのこまくら。次の夜コトバもうつからく。
そらあわせがくまくら。みどりまくら。とく
てらきくらのへ。文もくとそくがふ。みどりくらを
よれとくらむくらなど。また中ナカふとぶきとくら。
ゆのとくらむくら。それあうあもねあらかきとくら
漢文カタカナとくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
きくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。

加

右う集系二行ちお。門ようもんいそ。かまくら
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
いとうあうであうじくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。

うふふのつぶともあらがへ。まく
かとよ月も。別あつひどうたのゆある所
をそんづくふく。きのじらめをこむよた。いそ
うふふのじ。だめふくえまとよしゆく。あら
ひかく。

トヨウモロコシのとあくモロコシと。上を御モロコシつけ
トヨウモロコシ。御口頭モロコシと云ひ。トヨウモロコシ
トヨウモロコシ語もむや。次ホ語もあ。トヨウモロコシ
トヨウモロコシ。トヨウモロコシ。トヨウモロコシ。トヨウモロコシ

「日も暮れぬあつて、とひかを主
とせんじゆる。」「日も暮れぬあつて、
やうにとひく。」
かのとひくを心むづのへも「日も暮れ
やうにとひくよ上の猪もせぬよ
ようとひく。ほ丈あつむがちとあく。あくと
ひふもくと。

ゆふあわよとひどきあるかとよとやりてか
うそといふとまへどのゆゑふとよとまへ
ゆうかくふゆふとよとまへまふあひひむて

居のからうあそ。かねとらひと。故ゆきとちき。又ほ夕ふ句のか
らすある故字へ。昔ようかくが田名をと訓ミリ申。と見て「か」は「
や」をもとあると云う。うやうがあらむ。彼のかくふもとみゆる
とくすすま。さきがゆるもと。かくほ夕とよむす。ゆく夕のつる
すすまとふくら。うやうあらう。うやうあらう。

の

のくふ。とくとくをまよまようふと。やうのぬやうう
おまじら。うとつゆ河たうと。近まうらの入れ文あん。
まことわざで。とく河のまわいのとくとくひうらじ
ことくまきと。ほ文よなうくうひうらと。とくとく
のゆうと。さやうふのとくとく。どうじゆ行ハ取きと
し。おきおふへと。一々のとくとく。しゆうかふとくとく

か

かくう。ひくとくねぐ。被くとくとく。あらせうの
ばくあ。被事とくとく。やうみくとくおつゆ河と
被く被くとくとく。此河とつゆまき和あつ
くとくとく。さくとくとく。ほ文の日字ふなうとくとく
とくとく。抑ほ文あく。日字ハかつと訓へきと。ます
と訓へきと。ちのくと訓へきととく。おき訓と

ふあま

七

文の润み差別

○五十九

うす有る。彦九郎もまほらぬ。先づ、船泊をあき、船て
ままであると。口と舌もあつてやうもあらず。そぞ
きのえりゆくふたりともと。又をぐてハシム。文の中も
よみてハニミニシテ。口もあくとおきふき。あら
やかなるか。わざやうのことをわざやう。
わざやうが。又つひごと。あらわく
やう。

アラスカの幻

のへは直文と雜文をもつてゐる。『

卷之六

よのかくも。すまれあまとこく。おはなせあ
をよぶよまきとく。よそをかく。よそをよ
くよぐ。雅文のつひやうふしひ。おはな
をよくよく。おのしもよじよもよ。えよよ
むよくよく。今のはくよかくよくよく。
雅文あゆくよくよく。おはなせよくよ
くよく。よそをよくよく。おのしもよ
くよくよく。おのしもよじよくよく。
人り文あく。よそをよくよく。よそをよ
くよくよく。よそをよくよく。

近世人の文ふ。もとから
ヤラフミ
書文のふをぬくと。多く

卷之六

かまきり。あらわ。とおもひ。かまきり。かまきり。
とえがみ。かまきり。あら。つまむと。まばら。
とくそ。うそと。まくろのほん。りの難解! 即ち
ちまやくまど。らうねともつゝ。とくらせんと。修名
ヤキ
まくらうて。さやうめをじあむか。カシバ。ハシ
カラ
イクサブミ
1. ほどの家おぢやうのぬと。とくら。がほ
めじ。とくら。浴人の身ある。モノ
物。おきをまくら。ゆれす。おとす。いと
もまくら。おきわ。おきわ。もうよき文。お。もと
まくら。おきわ。おきわ。いと

時代のゆきひ

あらまもつまふ。うちめあらまもあらまめ
はまくあ。うちめあらま。又まもまめ
とまく。つまひどもづまきがまくハ。ち
みまくめ
時代のゆりゆく
今世人の文も。時代のときまくをくも。中昔の文
や文よ。まもまくも。もくもくも。又よ
すれや文よ。ひげふせまくの羽とまく。アモめど
て。うみゆきめくも。もくもくも。もくもくも。

寛政四年壬子春初刻
天保十三年壬寅秋再刻

大忍心齋鶴賀博芳町 河内屋茂兵衛
勢州松枝日野町 柏屋兵助
皇都御斎姫路登町 萩屋孫兵衛
同寺町通猿路元町 井筒屋忠兵衛
肆 同寺町通四条下町 山城屋佐兵衛

元吉

如老住庵

花若